

20008

Power Injector System を使用した術者間の造影剤使用量について

¹千葉県循環器病センター

今関 雅青¹

【目的】 Power Injector System を使用した術者間の造影剤使用量について調査した。【方法】 診断カテーテル検査施行術者 9 人の冠動脈造影における造影剤使用量を術者毎に解析した。対象は Power Injector System 導入後、術者毎に対する 1 検査毎の冠動脈造影を、総造影剤使用量より最小造影剤使用量から上位 30 例として、造影剤使用量の平均値、最小～最大値、1 ショット当りの造影剤量使用を分析した。Power Injector System は、Avanta（日本メドラッド株式会社）を使用した。【結果】 術者間における 1 検査当りの造影剤使用量の平均値、最小～最大値、1 ショット当りの造影剤使用量はそれぞれ、 $22.1 \pm 4.3 \sim 49.1 \pm 6.1$ ml, $13 \sim 63$ ml, $4.9 \pm 1.1 \sim 9.0 \pm 2.1$ ml であった。各項目とも、術者間で造影剤使用量の格差を生じる結果となった。【考察】 1 ショット当りの使用量が多い術者はテストショットが多く、造影剤量の少ない術者は、症例毎に注入条件を設定する傾向があることが半明した。【結論】 Power Injector System の利用次第では造影剤使用量の低減は可能である。したがって症例毎に積極的な造影剤注入量を可変および設定することで、精確な造影剤注入コントロールが可能である Power Injector System の特徴が活かされる。